交 換 留 学 レ ポ ー ト

留学先国・地域	台湾	留学先大学名	東海大学
高知大学での所属	人文社会科学部・学科 国際社会コース	留学先での所属	不分
留学期間	2018/2/23 ～ 2019/1/31		

学習に関すること

１履修について

履修については英語で教授される授業が豊富にあった。しかし、英語が目的では無かったのであまりやる気が起きず、そこまで履修できなかった。また普通の中国語で教授する授業は、難易度が少し高かった。当てられた時に答えられなかったらどうしようとか、留学生がうけてもいいのかなど、考えてしまいこちらも履修があまり思うようにできなかった。ただ、その中でいいと思うのが、語学の授業である。私は高知大学になかったインドネシア語の授業をとった。語学の授業の中国語は比較的安易で、アットホームなので外国人には比較的やさしい。

２華語中心（中国語センター）の授業について

「華語中心」とは何か。華語＝中国語（マンダリン）、中心＝センター、つまり「中国語センター」の意味である。多くの台湾の大学には、この華語中心があり、外国人が中国語を勉強している。東海大学では、華語中心の授業は無料だ。他の多くの大学は必要に応じて受けるということで、交換学生も有料であるようだ。多くの東海大学の交換留学生の目的の一つはこの華語中心で学習することである。平日一日 3 時間、自分のレベルにあった６人前後の少人数教室で、経験豊富な先生のもとみっちり中国語を勉強できる。また、交換学生の特典として、大学の宿舎に住める。台湾人と当たる可能性が高いが（二学期はなぜか私の部屋だけ全員外国人だった。）ルームメイトが台湾人（もしくは中国語ができる人）なら授業で習ったことを即ルームメイトに使える。すると、教科書通りにいかない会話が繰り広げられ、またそれを授業に持っていく。この華語中心と台湾人学生との学生生活が合わさったとき、中国語が飛躍的に伸びる。交換学生として東海大学に留学する意味がここにある。なので、これから留学を考えている学生には東海大学への派遣交換留学を強力にお勧めしたい。

（ただ、オフレコで聞いた話だが、今後交換学生も有料にするか、もしくは少人数制をやめる可能性があるようだ。ただそれでも東海大学の教育の質が高いことには変わりはないと思う。）

生活に関すること

1．宿舎について

宿舎は一部屋 4 人である。前期は全員台湾人であった。1 人は日本語学科の学生で日本語が上手だったので、生活面では彼に頼りっぱなしであった。他のルームメイトとのコミュニケーションも彼が助け

てくれた。しかし、他のルームメイトにせっかく台湾に来ているのだからもっと中国語を使うべきだと言われてしまった。しかし、そう言われてもなかなかうまく話せないのが外国語というもので、言葉との葛藤の毎日であった。しかし、この葛藤は無駄ではなかった。こういう台湾人との生活を通して毎日 1 つ 1 つ単語を覚えていく地道な作業は半年後に結果が現れる。

また、宿舎の生活では文化の違いにも気づくことが出来る。まじかで現地人の生活を覗けるのは宿舎で生活する醍醐味であると思う。

2. 食事と食堂について

食事は大学の中や大学の周りにある食堂ですることが多いと思う。台湾は外食文化なので店舗が多い。人が住むところ集まるところには必ず食堂街ができる。そして食堂はとにかく安い。チャーハンがだいたい 250 円前後で食べることができる。店によって味もまちまちで個性がある。店は一方で店主の生活空間でもある。ある店のトイレは普段店主が使っているのか、歯磨きなども普通に置いてあったりした。また、ある店は子供が帰ってきて店の中で普通に友達とゲームなどをして遊んでいる。たまに靴のままテーブルの上に座ったりしている子供も見かけた。店主は忙しいのか自分の子供たちを叱らないこともある。基本的に店は自分の家なのだから店主がしたいようにしている。とにかくこういう下町の一般の食堂は日本の食堂とは考え方が違っており、はじめは戸惑いもあったが、すぐに慣れた。今ではむしろ台湾の考え方の方が自然なのではないかとも感じている。日本のようなサービスを受けようと思えば服務費（サービス料）のかかる店に行かなければならない。でも私はお客として扱われる、企業のサービスもいいが、下町の店主の自然な対応もアットホームで心にしみて居心地がいい。売り手とお客という関係というよりかはご近所さんという感覚の方に近いかもしれない。服務費が入っていないのだから、店員が「笑顔（丁寧）」か「笑顔でない（丁寧でない）」、そういった種のものは、その人の性格、その人の体調、あなたが好まれているかなど、人間性に作用される。

また、台湾の下町の店は特に規定がなければ、常識的な範囲で飲み物などの持ち込みは問題ない。ただこの「常識」が厄介で、他の店の食べ物だけでなく、犬などペットまで普通に持ち込んでいる人がいるのに（ペットも家族扱いするという新しい文化があり、それが影響している可能性もある。そう考えた場合は持ち込みではなく、「同伴」と言った方が適切かもしれない。）、お酒の持ち込みは NG である。店によっても違うが、とにかくよく店の中を観察するべきだ。因みに、多くの下町の食堂ではビールは提供されていない。お酒は居酒屋か家で、これが台湾の文化である。たまに日本人が、店にあった店主のビールを提供しろと強要するという話を現地の先生から聞いた。いろんなところでお酒を販売しているのが当たり前の日本人には、店にビールがないことが理解できないようだ。また、客が神様であるという考えは改めるべきであると思う。